

特別講話

# いまをどう生きるのか

南無の会会長・龍源寺前住職  
**松原泰道**

## 帰る時、来た時よりも美しく

混迷の時代といわれるいま、豊かな人生を送るには、我々はどうか生きてらよいか――。

その問いに対し、禅の高僧・松原泰道老師は、去る一月二十四日に東京プリンスホテルで開催された「いまをどう生きるのか」新春特別講演会において、自らの百一年の人生の歩みと仏教の教えを織り交ぜながら切々と説かれた。老師の滋味溢れる講話をここに紹介する。

松原泰道——まつばら・たいどう

明治40年東京都生まれ。昭和16年早稲田大学文学部卒業。岐阜・瑞龍寺専門道場で修行。26年臨済宗妙心寺派教学部長。52年まで龍源寺住職。全国青少年教化協議会理事、「南無の会」会長等を歴任。各種文化センター講師を務めるなど、講演、著作に幅広く活躍。47年臨済宗宗門功勞賞受賞。平成元年第23回仏教伝道文化賞受賞。「般若心経入門」(祥伝社)「人生を癒す 百歳の禅語」(致知出版社)など、その著作は100冊を超える。最新刊は、作家・五木寛之氏との共著「いまをどう生きるのか」(致知出版社)。

### 日に新た 日々に新た また日に新たに

きょうは遠く九州や四国、北海道からお出でいただいた誠意ありがとうございます。高いところ

からでありますけれども、まずきょう皆さまにお目にかかれましたご縁に篤くお礼申し上げます。ありがとうございます。(一同拍手)

私は後期高齢者をつくりに終え

まして、ただいま末期高齢者でございませぬ(会場爆笑)。残された命も、もう秒読み段階でいつ消えるか分かりませんので、消えないうちに早速お話に入りたいと思いま

持ちでこの題を選びました。

\*

中国の古典の「大学」の中に、「日に新たに、日々に新たに、また日に新たに」という有名な格言があります。

きょうの演題「いまをどう生きるのか」に、サブタイトルとして「帰る時、来た時よりも美しく」をつけさせていただきます。

五木寛之先生と一緒に出させていただいた本のタイトルであり、この講演会のテーマである「いまをどう生きるのか」に対する、私のお答えとして選びました。

お出でになった方もたくさんあると思えますけれども、鳥取のあの美しい砂丘、私は随分前に観光にまいりました。本当に美しい砂丘であります。その所々に、「帰る時、来た時よりも美しく」と、観光客が汚さないように呼びかけた制札が立てられてあります。

「大学」には「新民」、「民を新たにす」という言葉がありますが、それは「民を教化する」ということです。「日に新たに、日々に新たに、また日に新たに」この格言を中国ではずっと尊重されておったようですね。

私もやがて土に還っていきます。私が土に還っていくこれからの日々も、これまで生きてきた時と同じように価値のある生き方をしたいと、自分に言い聞かせるような気

紀元前十六世紀という大昔に、中国に殷という王朝があり、初代の王様を湯王といい、名君でした。この殷という国は非常に金属の美術品が有名だったようで、いまでも当時のものが発掘されます。湯